

# **TMPM343 内蔵 Flash メモリ 対応手順書**

株式会社D T S インサイト

**【ご注意】**

- (1) 本書の内容の一部または、全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不明な点やお気付きの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本書に記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標、または商標です。

© 2013 DTS INSIGHT CORPORATION. All rights reserved

Printed in Japan

## 改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第1版	2013.10.31	新規発行
第2版	2013.11.08	フラッシュソフトウェアブレイク対応
第3版	2014.11.25	<ul style="list-style-type: none"><li>・「2. 対応 Install kit CD バージョン」全面改定</li><li>・誤記修正</li></ul>

## 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>5</b>
<b>2</b>	<b>対応 Install kit CD バージョン</b> .....	<b>5</b>
<b>3</b>	<b>事前準備</b> .....	<b>6</b>
3.1	セキュリティ機能.....	6
3.2	ベクタテーブルに正しいアドレスが入っていない場合.....	6
<b>4</b>	<b>メモリマッピング設定</b> .....	<b>7</b>
4.1	フラッシュマッピング設定.....	7
4.2	ICE 作業用ユーザーRAM 設定.....	8
<b>5</b>	<b>フラッシュメモリエース</b> .....	<b>9</b>
<b>6</b>	<b>フラッシュメモリダウンロード</b> .....	<b>9</b>
<b>7</b>	<b>フラッシュメモリソフトウェアブレイク</b> .....	<b>9</b>
<b>8</b>	<b>注意事項</b> .....	<b>10</b>
8.1	動作モードについて.....	10

# 1 はじめに

この資料は、フラッシュ書き込みに関する固有の注意事項について記載したものです。  
従いまして、書き込みの手順等の ICE の操作方法に関しましては、  
「microVIEW-PLUS ユーザーズマニュアル(共通編)/(固有編)」をご覧ください。

## 2 対応 Install kit CD バージョン

下記バージョン以上の Install Kit をご使用ください。

SoC 名	対応バージョン	
	adviceLUNA II H2X600IK	adviceLUNA SLX600
TMPM343FDXBG	1.04	3.01
TMPM343FEXBG	1.04	3.01
TMPM343F10XBG	1.04	3.01

## 3 事前準備

### 3.1 セキュリティ機能

内蔵フラッシュメモリのセキュリティ機能を有効にしないでください。

セキュリティ機能を有効にしますと、デバッグ通信不可となり ICE が使用できなくなります。

セキュリティ機能が有効になる条件は以下の項目すべてに合致した場合となります。

(詳しくは SoC のデータシートをご覧ください)

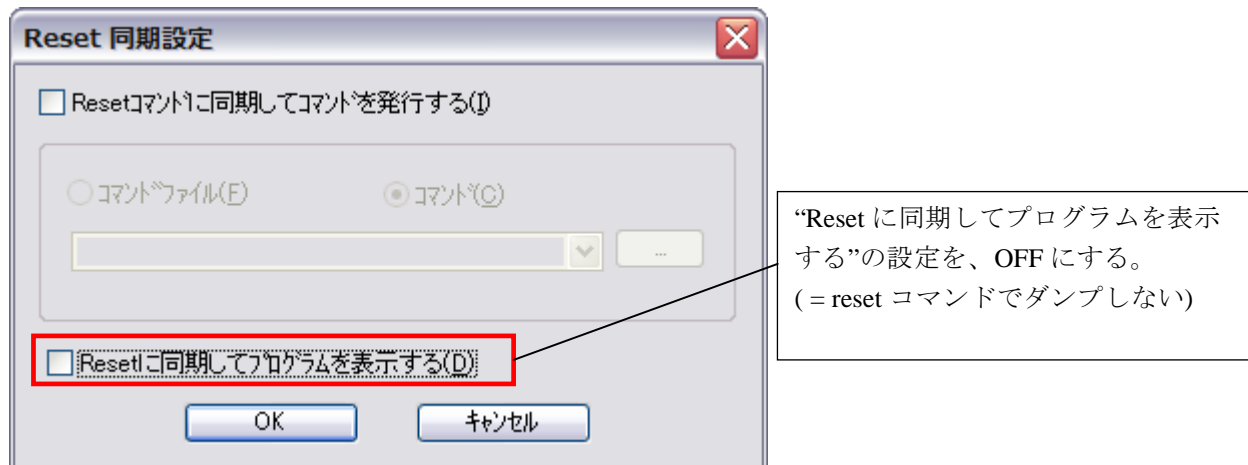
- SECBIT レジスタのビットを"1"にセット
- 内蔵フラッシュメモリのライト/消去プロテクト用の 全てのプロテクトビットを"0"にセット

### 3.2 ベクタテーブルに正しいアドレスが入っていない場合

microVIEW-PLUS は、reset コマンドによる接続後、プログラム表示(逆 ASM 表示)のため、リセットベクタ領域をダンプします。内蔵フラッシュメモリに何も書きこまれていないとき(ベクタテーブルが、0xFFFFFFFF、0xFFFFFFFFE をダンプしようとしてしまい、"ICE Error No.f58: スティックキーエラー"が発生します。

#### 【対策】

ツールバーの Reset ボタンを右クリックし、「Reset 同期設定」ウィンドウを開く。



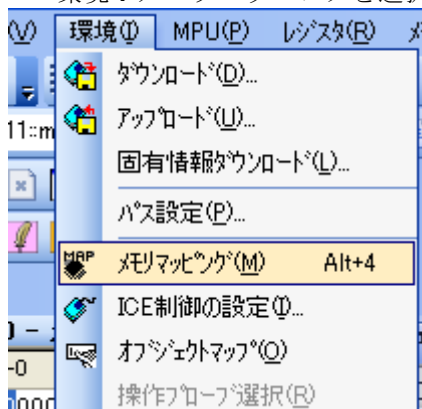
内蔵フラッシュメモリにプログラムがダウンロードできたら(正しいベクタテーブルの値が書き込まれたら)、上記の設定を ON にもどしてご使用ください。

## 4 メモリマッピング設定

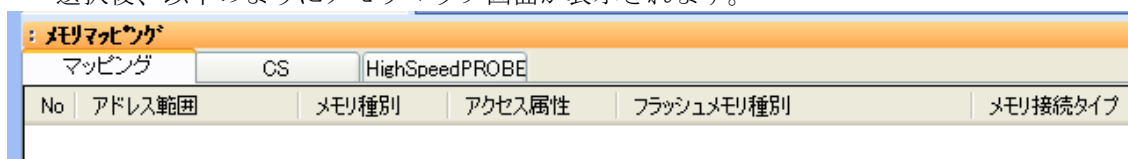
### 4.1 フラッシュマッピング設定

フラッシュメモリのマッピングは、フラッシュメモリへのダウンロードおよびソフトウェアブレイク機能を使用する場合に、設定が必要になります。

- ・メモリマッピングウィンドウを開きます。  
環境→メモリマッピングを選択してください。

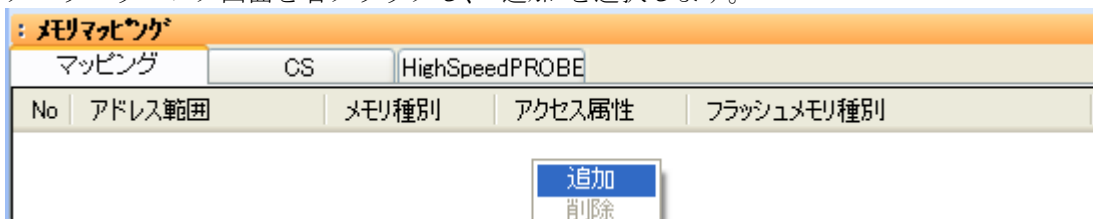


- ・選択後、以下のようにメモリマップ画面が表示されます。

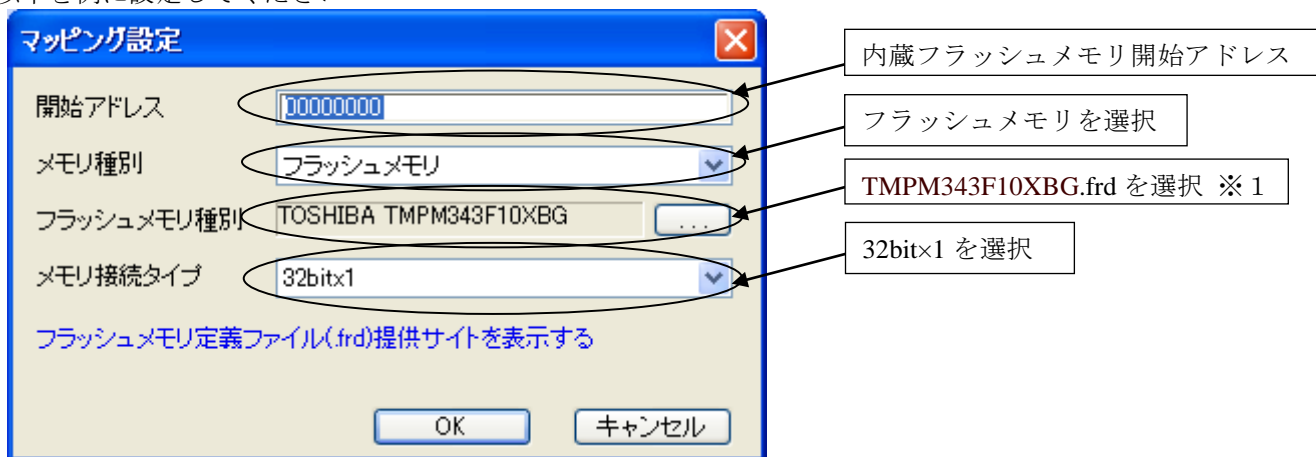


- ・マッピング設定をおこないます。

メモリマッピング画面を右クリックし、“追加”を選択します。



以下を例に設定してください



※1 使用するフラッシュに合わせた「フラッシュメモリ書き込み定義ファイル(frd)」を選択してください。

製品	対象ファイル
TMPM343FDXBG	TMPM343FDXBG.frd
TMPM343FEXBG	TMPM343FEXBG.frd
TMPM343F10XBG	TMPM343F10XBG.frd

## 4.2 ICE 作業用ユーザーRAM 設定

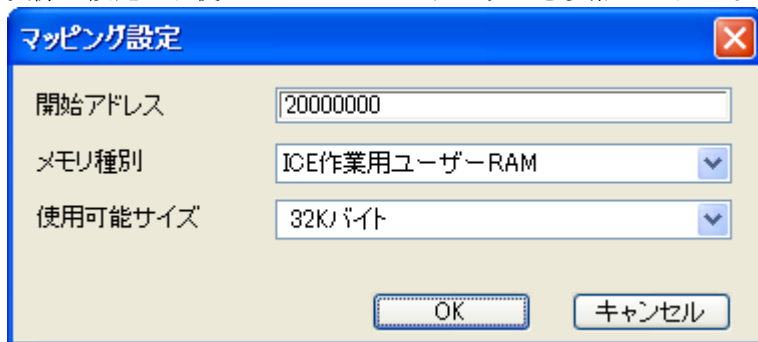
ICE 作業用ユーザーRAM のマッピングを行うことで、フラッシュメモリへのダウンロードがより高速になります。

マッピング設定を行わなくてもフラッシュメモリへのダウンロードは可能です。

ICE 作業用ユーザーRAM には、ICE が占有可能な領域を設定してください。

以下は、0x20000000 から 32KB サイズ分設定したときの設定例です。

実際の設定はお使いの MPU のメモリマップを参照しておこなってください。





## 5 フラッシュメモリエース

microVIEW-PLUS ユーザーズマニュアル 共通編(mvwPLUSj.pdf)の

「5.2 フラッシュメモリの内容をイレースするためには」をご覧ください。

なお、メモリマッピングの設定は本書に記載済みですので、その他についてご覧ください。

## 6 フラッシュメモリダウンロード

microVIEW-PLUS ユーザーズマニュアル 共通編(mvwPLUSj.pdf)の

「5. フラッシュメモリへプログラムをダウンロードする – フラッシュメモリ」をご覧ください。

なお、メモリマッピングの設定は本書に記載済みですので、その他についてご覧ください。

## 7 フラッシュメモリソフトウェアブ레이크

microVIEW-PLUS ユーザーズマニュアル 固有編(HLX600\_jpn.pdf)の

「9.5 フラッシュメモリへソフトウェアブ레이크を設定する」をご覧ください。

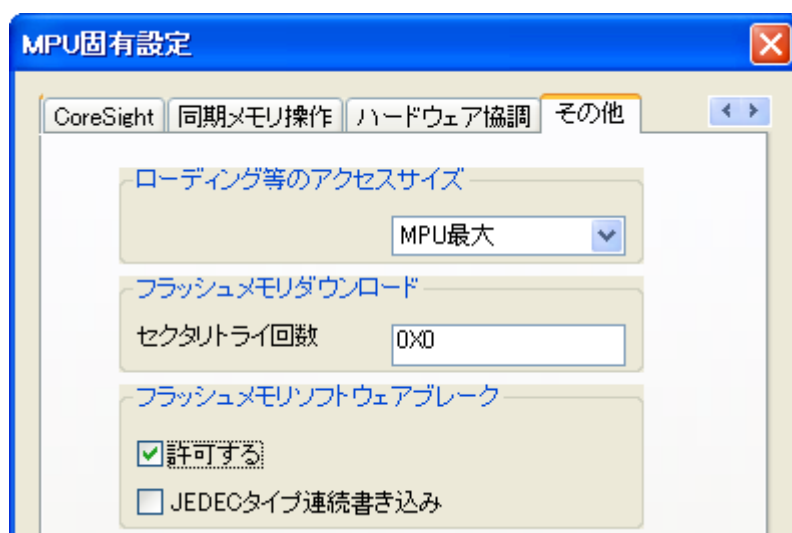
なお、メモリマッピングの設定は本書に記載済みですので、その他についてご覧ください。

初期状態では、フラッシュメモリへのソフトウェアブ레이크が禁止されています。

禁止されている状態でフラッシュメモリへソフトウェアブ레이크を設定した場合は、次のエラーになります。

“ICE Error No.8c4: Set Software Break Verify Error”

フラッシュメモリへのソフトウェアブ레이크設定を許可する場合は、MPU 固有設定 [その他] タブのフラッシュメモリソフトウェアブ레이크の「許可する」をチェックしてください。



## 8 注意事項

### 8.1 動作モードについて

動作モードはシングルチップモードをご利用ください。

シングルブートモードでは JTAG 及び SWD にアクセスできないため ICE が使用できません。